

送 辞

寒い冬を耐えてきた桜の蕾も膨らみはじめ、春の訪れを感じるこのよき日、亀岡川東学園を卒業される二十八名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。常に私たちの見本だった先輩方は、多くの行事や部活動を共に頑張る中で、いつの間にか私たちの憧れとなっていました。

新型コロナウイルスも落ち着き始めた、今年度。ようやく、体育祭でソーランを披露することが、できるようになりました。先輩方は、より完成度の高いものにとしようと、夏休みから熱心に練習に励んでおられました。そして、二期期には、私たち後輩に優しく丁寧に、粘り強く指導してくださいました。いつもは優しい先輩が、厳しく喝を入れてくださることもあり、みなさんの熱い思いが伝わってきました。体育祭当日、本番前に「頑張るぞ！」という声かけで、私たちみんなの気持ちを、盛り上げてくださったことを、今でも覚えています。

また、文化祭で歌った、全校合唱曲「ビリーブ」。昨年度は、歌うことのできなかつたこの曲を、最高のものにとしようと、常に私たちを引っ張ってくださったおかげで、全校のみなどで、美しい歌声を響かせることができました。そして、迫真の演技で、誰もが釘付けとなつた演劇。沖縄への修学旅行で学んだ、平和への願いを込めて演じられた、数々のシーンに、胸が熱くなりました。戦争のことを何も知らなかった登場人物に、自分たちを重ねて、過去の歴史を知り、今の平和を守っていくことの大切さを、深く感じました。

九年生を送る会を終えた今、先輩方が、私たち後輩を、どれほど力強く引っ張ってくださったのかが分かり、その存在の大きさを、身にしみて感じています。先輩方は、今日をもって、この学園を卒業されます。しかし、先輩方が私たちたちに繋いでくださったものや、この学園で一緒に過ごした思い出は、決して消えません。部活動や行事で、共に汗を流し合った先輩方がいなくなってしまうことに、不安はありますが、私たち八年生が、下級生の見本となるよう、努力していきます。そして、歴史と伝統を引き継ぎ、全校児童生徒で協力しながら、より良い学園を作っていきます。先輩方のご健康とご活躍を祈念して、送辞といたします。

令和五年三月十三日

在校生代表 中川 紗季